

研究教育業績（過去5年間）

I. 研究業績

1. 主な発表論文

[原著論文]

- 1) Suzuki M., Cao K., Kato S., Mizutani N., Tanaka K., Arima C., Tai M.C., Nakatani N., Yanagisawa K., Takeuchi T., Shi H., Mizutani Y., Niimi A., Taniguchi T., Fukui T., Yokoi K., Wakahara K., Hasegawa Y., Mizutani Y., Iwaki S., Fujii S., Satou A., Tamiya-Koizumi K., Murate T., Kyogashima M., Tomida S., Takahashi T., CERS6 required for cell migration and metastasis in lung cancer. *J Cell Mol Med.* **24**, 1949-11959 (2020).
- 2) Kudo A., Ishikawa T., Nakamura H., Yamada K., Nakahara S., Taguchi I., Inoue T., Sako K., Kyogashima M., Serum sulfatide levels across atheromatous plaques are significantly affected by plaque injury caused by percutaneous coronary intervention. *SN Compr. Clin. Med.* **2**, 893-898 (2020).
- 3) Lu Y., Harada M., Kamijo Y., Nakajima T., Tanaka N., Sugiyama E., Kyogashima M., Gonzalez FJ., Aoyama T., Peroxisome proliferator-activated receptor α attenuates high-cholesterol diet-induced toxicity and pro-thrombotic effects in mice, *Arch Toxicol*, **93**, 149-161 (2019).
- 4) Noda A., Kato M., Miyazaki S., Kyogashima M., Separation of glycosphingolipids with titanium dioxide, *Glycoconj J*, **35**, 493-498 (2018).
- 5) Aoyama Y., Sobue S., Mizutani N., Inoue C., Kawamoto Y., Nishizawa Y., Ichihara M., Kyogashima M., Suzuki M., Nozawa Y., Murate T., Modulation of the sphingolipid rheostat is involved in paclitaxel resistance of the human prostate cancer cell line PC3-PR, *Biochem Biophys Res Commun*, **486**, 551-557 (2017).

2. 主な学会発表

[国際学会]

なし

[国内学会]

- 1) 加藤美樹 野田彩佳、宮崎将太、京ヶ島守、チタニア（酸化チタン TiO₂）による糖脂質分取の試み—その2—, 第63回日本薬学会関東支部大会, 9月, 白金 (2019).
- 2) 中嶋岳郎, 京ヶ島守, 田中直樹, 上條祐司, 第92回日本生化学大会, 9月, 横浜 (2019).
- 3) 京ヶ島守, 田口功, スルファチドは、粥状硬化病変に存在し急性冠動脈症候群の増悪因子となりうる, 第13回スフィンゴテラピィ研究会, 12月, 砺波 (2018).
- 4) 加納珠依, 塚本圭佑, 松田佳和, 田口功, 京ヶ島守, 経皮的冠動脈形成術は冠動脈内スルファチド濃度に影響を及ぼす, 第62回日本薬学会関東支部大会, 9月, 中野 (2018).
- 5) 野田彩佳, 岩田堂海, 鹿子生啓介, 黒沢博基, 宮崎将太, 京ヶ島守, チタニア（酸化チタン TiO₂）による糖脂質分取の試み, 第62回日本薬学会関東支部大会, 9月, 中野 (2018).

- 6) 京ヶ島守, 上條祐司, 中嶋岳郎, 青山俊文, 慢性腎臓病の透析患者における血清スルファチド値の経時変化, 第12回スフィンゴセラピー研究会, 9月, 能登 (2017)
- 7) 鈴木元, 村手隆, 京ヶ島守, 古水雄志, 松本陽子, 高橋隆, CERS6によるスフィンゴ脂質プロファイル制御と肺がん転移, 第76回日本癌学会学術総会, 9月, 横浜 (2017)

3. その他特筆すべき研究業績

- 1) 京ヶ島守 (代表), 富士化学株式会社共同研究, ケイ酸ナトリウム水溶液の構造解明, 264千円, (2020).
- 2) 京ヶ島守 (代表), 富士化学株式会社共同研究, ケイ酸ナトリウム水溶液の構造解明, 264千円, (2019).
- 3) 京ヶ島守 (代表), 富士化学株式会社共同研究, ケイ酸ナトリウム水溶液の構造解明, 220千円, (2018).
- 4) 京ヶ島守 (分担), 文部科学省科学研究費補助金基盤研究C, 冠動脈粥状腫不安定化とPCI後再狭窄におけるmiRNAおよびスルファチドの検討, 104千円, (総額312千円) (2017).
- 5) 京ヶ島守 (代表), 富士化学株式会社共同研究, ケイ酸ナトリウム水溶液の構造解明, 165千円, (2017).

II. 教育業績

1. 担当授業科目

(2021年度)

薬学体験学習 1学年 2コマ (6年制)
生物特論 6学年 2コマ (6年制)
薬学総合演習IB 4学年 1コマ (6年制)
薬学総合演習II 6学年 1コマ (6年制)
卒業研究 6学年 (6年制)
病態と治療IV 3学年 15コマ (4年制)
生活習慣と病気 3学年 15コマ (4年制)
微生物と生体防御 2学年 15コマ (4年制)
糖鎖脂質生物学特論 2学年 8コマ (大学院)
研究倫理特論 1学年 1コマ (大学院)

(2020年度)

薬学体験学習 1学年 2コマ (6年制)
生物特論 6学年 2コマ (6年制)
薬学総合演習IB 4学年 1コマ (6年制)
薬学総合演習II 6学年 1コマ (6年制)
卒業研究 6学年 (6年制)
薬学原書講読II 4学年 10コマ (6年制)
病態と治療IV 3学年 15コマ (4年制)

生活習慣と病気 3 学年 15 コマ (4 年制)
微生物と生体防御 2 学年 15 コマ (4 年制)
研究倫理特論 1 学年 1 コマ (大学院)

(2019 年度)

薬学体験学習 1 学年 2 コマ (6 年制)
薬学総合演習 IA 4 学年 1 コマ (6 年制)
薬学総合演習 II 6 学年 2 コマ (6 年制)
卒業研究 6 学年 (6 年制)
薬学原書講読 II 4 学年 10 コマ (6 年制)
病態と治療 IV 3 学年 15 コマ (4 年制)
生活習慣と病気 3 学年 15 コマ (4 年制)
微生物と生体防御 2 学年 15 コマ (4 年制)

(2018 年度)

薬学体験学習 1 学年 2 コマ (6 年制)
生物化学実習 2 学年 (6 年制) 9 コマ
薬学総合演習 IA 4 学年 3 コマ (6 年制)
薬学総合演習 II 6 学年 3 コマ (6 年制)
卒業研究 6 学年 (6 年制)
薬学原書講読 II 4 学年 10 コマ (6 年制)
病態と治療 IV 3 学年 15 コマ (4 年制)
生活習慣と病気 3 学年 15 コマ (4 年制)
微生物と生体防御 2 学年 15 コマ (4 年制)
医薬学英语 3 学年 3 コマ (4 年制)

(2017 年度)

薬学体験学習 1 学年 2 コマ (6 年制)
臨床医学概論 4 学年 (6 年制) 10 コマ
生物化学実習 2 学年 (6 年制) 9 コマ
薬学総合演習 IA 4 学年 2 コマ (6 年制)
薬学総合演習 II 6 学年 2 コマ (6 年制)
卒業研究 6 学年 (6 年制)
病態と治療 IV 3 学年 15 コマ (4 年制)
生活習慣と病気 3 学年 15 コマ (4 年制)
微生物と生体防御 2 学年 15 コマ (4 年制)
医薬学英语 3 学年 3 コマ (4 年制)

2. その他特筆すべき教育業績

なし